

- 問1 607年に派遣された使節において、当時の中国の皇帝に「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」で始まる国書を届けたとされる、代表的な人物は誰か選択してください。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 中臣鎌足 2. 阿倍仲麻呂 3. 鑑真 4. 小野妹子
-
- 問2 663年に朝鮮半島の西南部の海域で発生した「白村江の戦い」とその後の日本の動向について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 女真族の侵入をきっかけに、朝廷は遣唐使の派遣を完全に停止した 2. この戦いに勝利したことで、日本は朝鮮半島南部での影響力を強めた 3. 元の軍勢を暴風雨の助けを借りて退け、これを機に武士の力が強まった 4. 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とびひ）を配置した
-
- 問3 7世紀中ごろ、唐が朝鮮半島北部の高句麗を攻撃したことにより、東アジアでは国際的な緊張が極限まで高まりました。このような外部からの脅威に対抗するため、日本（倭）において天皇中心の中央集権国家体制を整えようとして行われた一連の政治改革はどれですか。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 明治維新 2. 大化の改新 3. 公事方御定書の制定 4. 十七条の憲法の制定
-
- 問4 7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
1. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。 2. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。 3. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。 4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。
-
- 問5 推古天皇の摂政として、才能や功績に応じて位を与える冠位十二階の制度や、役人の心構えを示す十七条の憲法を定めた人物は誰か。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 天智天皇 3. 中臣鎌足 4. 天武天皇
-
- 問6 壬申の乱に勝利して即位し、律令に基づく天皇中心の国づくりを強力に進めた人物は誰ですか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)
1. 桓武天皇 2. 推古天皇 3. 聖武天皇 4. 天武天皇
-
- 問7 十七条の憲法の第一条には「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」とあり、また第三条には「天皇の命令を受けたならば、必ずつつしんで従いなさい」という趣旨の内容が記されています。このように、この法が道徳的な教えを通じて役人の心得を説いた主な目的は何ですか。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 土地や人民はすべて国家のものであるという「公地公民」の原則を、民衆に徹底させるため。 2. 有力な豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため。 3. 仏教を国の宗教として強制し、大きな寺院を建立するための労働力を確保するため。 4. 唐や新羅などの外国からの侵略に備えるため、武士の団結を強めて軍事を高めるため。
-
- 問8 奈良県に位置し、聖徳太子によって建立されたと伝えられる寺院で、現存する世界最古の木造建築物として知られる名称を次の中から選びなさい。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
1. 薬師寺 2. 法隆寺 3. 唐招提寺 4. 東大寺
-
- 問9 聖徳太子が定めた規範の中で、仏教を篤く敬うこと（三宝を敬うこと）と、天皇の命令への絶対服従を並べて記した政治的な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 秋田県公立入試 類似)
1. 仏教を深く信仰していた蘇我氏の独走を抑えるために、天皇の命令が宗教的な教えよりも優先されることを示すため 2. 律令に基づいた厳しい刑罰を導入する前に、仏教の教えによって人々の心を安定させ、犯罪を減らすため 3. 仏教を日本の国教として定めることで、大陸の隋や唐と同じような宗教国家を作り、外国からの侵略を防ぐため 4. 仏教による道徳心と天皇への忠誠心を結びつけることで、豪族たちの対立を抑え、天皇を中心とした国づくりを進めるため
-
- 問10 663年に朝鮮半島で行われた「白村江の戦い」において、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後の出来事として、歴史的背景に合致する説明はどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 大陸の影響を拒絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止し、国風文化を育てる政策に転換した 2. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子が政治の表舞台から退き、大王による豪族連合政治が復活した 3. 天皇中心の政治を諦め、有力豪族である蘇我氏に全ての政治権力を委ねる体制を整えた 4. 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した
-
- 問11 聖徳太子が定めた十七条の憲法の第一条には、「和をもって貴しとなす」という言葉が記されています。この言葉をあえて第一条に掲げ、役人の心得として強調した当時の政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
1. 外国の思想を排除し、日本独自の伝統的な神道を国家の柱とするため 2. 身分制度を厳格にし、農民が領主に対して反抗することを防ぐため 3. 有力な豪族同士の対立を抑え、天皇を中心とした国家体制を構築しようとしたため 4. 武士が土地を巡って争うことを禁止し、幕府による全国支配を確実にするため
-
- 問12 663年の白村江の戦いでの敗戦後、唐や新羅の侵攻に備えて、飛鳥時代に九州の防衛拠点であった地域を守るために築かれた遺跡として最も適切なものはどれですか。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)
1. 東大寺南大門 2. 平等院鳳凰堂 3. 大野城跡と水城跡 4. 日光東照宮
-
- 問13 7世紀の朝鮮半島では、唐と新羅が結んで周辺諸国へ勢力を拡大していました。この際、唐・新羅の連合軍によって滅ぼされた国を復興させるため、倭（日本）が救援軍を派遣した国はどこですか。 (2017年 静岡県公立入試 類似)
1. 伽耶（加羅） 2. 新羅 3. 高句麗 4. 百済
-
- 問14 7世紀後半、天智天皇の死後にその跡継ぎをめぐって大海人皇子と大友皇子が争った、古代最大といわれる内乱はどれですか。 (2026年 三重県公立入試 類似)
1. 保元の乱 2. 壬生の乱 3. 壬申の乱 4. 平治の乱

答え合わせ・解説

問1	答え 4 小野妹子	聖徳太子は小野妹子を遣隋使として派遣し、中国（隋）の皇帝である煬帝に国書を渡した。この国書の内容は、これまでの中国王朝への従属的な立場ではなく、対等な立場での外交を求めたものであり、当時の日本の自立意識の現れとされている。
問2	答え 4 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とびひ）を配置した	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北した日本は、大陸からの報復を強く警戒しました。そのため、九州の防衛のために防人を置き、急を知らせるための烽（のろし）のネットワークを整備しました。また、天智天皇は都を内陸の近江大津宮へ移すなど、国家の防衛と中央集権化を加速させました。選択肢にある元の侵攻（元寇）や女真族の侵入（刀伊の入寇）は、いずれも白村江の戦いよりも後の時代の出来事です。
問3	答え 2 大化の改新	唐が高句麗に侵攻し、朝鮮半島情勢が不安定になったことは、日本にとって国防上の大きな脅威となりました。この危機を乗り越えるため、中大兄皇子と中臣鎌足らは蘇我氏を打倒し、天皇を頂点とした強力な国家体制を築く「大化の改新」を断行しました。十七条の憲法はそれ以前の推古天皇の時代に制定されたものです。
問4	答え 2 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要性に迫られました。その後、672年に起きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問5	答え 1 聖徳太子	推古天皇の協力者として、天皇中心の国づくりを進めたのは聖徳太子である。中臣鎌足は中大兄皇子とともに大化の改新を行い、天武天皇は壬申の乱の後に即位して律令国家の建設を進めた人物であるため誤り。
問6	答え 4 天武天皇	大海人皇子は壬申の乱で勝利を収めた後、天武天皇として即位しました。天武天皇は、律令の編纂に着手したり、それまでの「大王」に代わって「天皇」の称号を本格的に使用し始めたりするなど、強力な指導力を発揮して国家の基盤を固めました。
問7	答え 2 有力な豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため。	当時の日本は、有力な豪族がそれぞれ勢力を持ち、互いに争うことも少なくありませんでした。聖徳太子は、国家を一つの組織としてまとめるために、役人が守るべき道徳規範を示す必要があると考えました。豪族たちが「和」を重んじて対立を避け、最高権威である天皇に従うという秩序を作ることで、天皇を頂点とする組織的な統治（中央集権化）を推し進めようとしたのがこの法の背景です。
問8	答え 2 法隆寺	飛鳥時代を代表するこの寺院は、斑鳩の地に聖徳太子（厩戸王）によって建てられました。金堂や五重塔などの西院伽藍は、幾度かの再建を経ているものの、世界最古の木造建築群として1993年には日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録されました。
問9	答え 4 仏教による道徳心と天皇への忠誠心を結びつけることで、豪族たちの対立を抑え、天皇を中心とした国づくりを進めるため	当時の日本は豪族同士の勢力争いが激しく、国家としてのまとまりに欠けていました。聖徳太子は、仏教という普遍的な教えを敬うことで個人の道徳観を養わせると同時に、天皇を国全体の最高権威として位置づけることで、私利私欲に走る豪族たちを統制し、天皇中心の中央集権体制の基礎を築こうとしました。
問10	答え 4 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した	白村江の戦いでの敗北は日本にとって大きな危機であり、中大兄皇子（後の天智天皇）は九州の大宰府周辺に防御用の堤防である水城や朝鮮式山城を築きました。この国防の必要性が、国家の権限を中央に集中させる律令制整備の大きな要因となりました。
問11	答え 3 有力な豪族同士の対立を抑え、天皇を中心とした国家体制を構築しようとしたため	古墳時代から飛鳥時代にかけては、蘇我氏と物部氏の対立に代表されるように、有力な豪族が勢力争いを繰り返していました。聖徳太子は、官僚としての道徳規範を示すことで豪族たちをまとめ上げ、天皇の命令に従う官僚機構を作り上げることを目的としていました。
問12	答え 3 大野城跡と水城跡	白村江の戦いでの敗戦後、唐や新羅からの侵攻に備えて大宰府を防衛するために作られたのが大野城跡や水城跡です。これらは飛鳥時代に整備されました。なお、平等院鳳凰堂は平安時代、東大寺南大門は奈良時代創建・鎌倉時代再建、日光東照宮は江戸時代に造営された建造物となります。
問13	答え 4 百済	飛鳥時代、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を強め、660年に百済を滅ぼしました。日本（倭）は古くから交流のあった百済の遺民から救援を求められ、中大兄皇子らの指揮のもと、百済復興のために大軍を送りました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗し、百済復興の計画は失敗に終わりました。
問14	答え 3 壬申の乱	天智天皇が亡くなった後、その弟である大海人皇子と、子である大友皇子の間で後継者争いが起こりました。これが672年の壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、中央集権化をさらに推し進めることとなりました。